

昼のジャズミュージックを楽しんで!

●「つくしんぼミニコンサート」に参加して!

今日の昼〔12:30~13:00〕は野田市役所 1階ラウンジにて「つくしんぼミニコンサート『夏のランチタイムをジャズミュージックで』」を楽しませていただきました。私にとっては昨年から通算3回目となる“つくしんぼミニコンサート”でしたが、ジャズミュージックは初めての体験でした。本日の出演はアルトサックスの Brian Yasuhiro Seymour (ブライアン ヤスヒロ シーモア)さんとピアノの高橋裕子さんによる演奏でした。



曲目は「サマー・サンバ SO NICE」「Lullaby Of Birdland (バードランドの子守歌)」「Cleopatra's dream (クレオパトラの夢)」「Take Five (テイク・ファイブ)」「Summertime (サマータイム)」とポピュラーな曲で音楽素人の私にとっては親しみやすく、2列目の席でしたのでサックスの音色がとても心地よく響いていました。

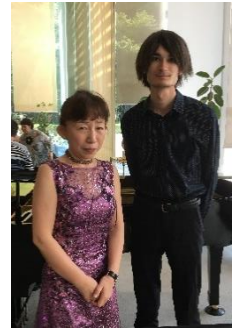


演奏者の **Brian Yasuhiro Seymour**さんは、現在 27 歳で、6 才でバイオリンを、10 才でアルトサックスを習いはじめます。

高校・大学時代にピッコロやフルート、クラリネット、バスクラリネット、オーボエ、ソプラノサックス、テナーサックスなどの木管楽器も習得。2007 年に高校のジャズバンドとヨーロッパツアーに参加。フランス、スイス (モントルー・ジャズ・フェスティバル)、スペインにて演奏。2015 年から日本でスタジオミュージシャン、サポートミュージシャンとして活動中とのことです。

ピアノの**高橋裕子**さんは、山形大学教育学部特別教科音楽 (ピアノ専攻) 卒で、野田市内でピアノサロン『若草会』を主宰されています。

会場の野田市役所 1 階ラウンジは天井も高く開放的で音の響きも最高です。100 名を超える聴衆の中には、ふれあい喫茶「つくしんぼ」にて食事を取りながら至福のひと時を過ごされている方々もいました。



コンサートの後で主催者の皆さんにお抹茶を一服差し上げ、

“つくしんぼ運営委員長”の加藤満子さんにお話を伺うと、「初めての開催は 1993 年で市庁舎がオープンした時でした。最初は箏とフルートを組み合わせたりしていたのですが、岡田医院の院長がロータリークラブの皆さんに諮ってグランドピアノを市に寄贈してくださり、こうして演奏することが可能になりました。このコンサートを長く続けてきて幸せに思うことは、演奏してくれた方の知り合いが次に出てくれたり、支援や応援してくれる人が増えたり、自然な形で人の輪が広がっていったことですね。日々それを肌で感じています」とのことです。

こうした演奏ができるのも、**根本崇前野田市長** (春日部地区浦高会会長) がラウンジを造られたことや障がい者の就労支援を目指した“つくしんぼ運営委員会”の皆さんに場を提供されたこと、「障がいのある人を応援したい、共に頑張りたい」という趣旨に賛同して出演を申し出てくれる多くの演奏者がいらっしやること、そしてこのミニコンサートを楽しみに来てくださるお客様がたくさんいらっしやることですね。

今日、私と一緒にミニコンサートに参加してくださった**鳥井隆一郎**さん (春日部地区浦高会副会長) が「野田市は春日部市に比べて昔から文化度が高かった。庄和町に住んでいた私が学生時代に文化の香りを求めて訪れたのは野田市でした。広い清水公園があり、図書館や劇場 (興風会館) のある野田市に来ると文化度が高いなあといつも感じていました」と仰っていました。私も野田市には一昨年何度も足を運ばせていただいておりますが、それはつくづく感じさせられることですね。

先日もある会合で市外の方から指摘されたのですが、「春日部には文化の香りが足りませんね。施設も中途半端だし、行政も市民も文化に対する意識が低いのだと思います。隣の越谷では能楽堂、花田苑、公民館でも茶室が整っていますよね。日本文化をしっかりと市民に伝えよう、市民が取り組もうという民度が伺えます」と指摘されました。文化度を上げる、民度を高めるということは一朝一夕にはできませんが、10年20年と小さな輪を繋ぎ、裾野を広げていくことで地域の文化度、人々の民度をより上げていきたいものです。私はお抹茶の文化を!